保育おおさか

平成19年4月1日　第380号

大阪府社会福祉協議会・保育部会
（大阪府保育協議会）
☎ 06−6762−9001　Fax 06−6768−2426

これからの −法人を考える−

保育部会における社会貢献事業とは

−部会長が語る−

約三年前に老人施設部会が社会貢献事業にのり出し費用分担もしての取り組みであります。中央では社会福祉法人の在り方が議論され特に介護施設においては株式会社も介護事業を行い、その資産・収入に対しては応分の税負担を強いられていて、片や社会福祉法人立の施設には固定資産税・事業税が免除されている、片やの方面から見ると〝おかしいやないか！〟

そこで、賢者の老人施設部会は先手を打って社会貢献事業にのり出し、一定の評価を受けているところであり、より幅広く社会貢献を広げていこうと当保育部会にも要請があったところであります。

大阪府下で、老人施設に加え圧倒的な数の民間保育園が右へ倣え！と地域貢献を始めれば、大きな大きなチカラとなる筈。

大阪は現在の民生委員である『方面員制度』を百年程前に大阪の先達（指導センター前に石標あり）がつくり、全国に民生委員として広がったもの！であり、百年後の私達で『正に地域の福祉センター』的役割を果たせるのではないか？と四十年程前に聞いた先達の話に思いが寄せられ、何かの興奮を感じているところであります。

これは、ただ『育児相談員』のグレードアップのみでなく、その相談員が所属する保育園の長にもそれなりの知識が求められます。ドキッ！

次の一手を

現段階ではあまり先走った事は言えませんが、初就任の民生委員・児童委員に対する研修制度が、私たちの保育園長には適した内容ではなかろうかな？とも勝手に考えております。この地域貢献事業については、本年度役員改選期でもありますので、体制が整った時点で、特別委員会を発足させてと考えております。

又々、保育園の仕事が増える！又増える！かも判りませんが、中央の現状をみる限り黙って何もしないより、次へ打って出る！出ましょう!!

全国でもトップレベルの大阪がこのような事業を展開したならば、社会福祉法人立の保育園の評価がでて参ります。

この事業が動き出した時には、絶大なご協力をお願い申し上げ、紹介にさせて戴きます。

保育部会長　永野　治男

育児相談員のグレードアップを

—地域から社会へ—

昭和59年5月から「でんわ育児相談」が前身の研修会で、幸い私達には十年程前に大阪府の認定書が交付される。

『育児相談員』があって、今も粛々とその人材養成に日々努力をしているところでもあります。

その皆様のグレードアップをして、地域から『保育園に行けば何でも判る』カタチの地域貢献になればと、役員の皆様ともご相談をしながら構想を温めて参りました。

一時は、入園式前に桜の花が散ってしまうのではと心配した暖冬も、ここ数日は、平年並みの寒さが続き、ある意味ほっとしている今日この頃です。

ところで、この時期、小学校・中学校の卒業式に、出席する機会が多いのですが、例年気になることがあります。と言うのも、式次第の中の教育委員会からのお祝いの言葉を来賓の方が話されます。文章の内容は、さすがプロの教育者が考えられただけに、感銘を受けるりっぱなものなのですが、余りにも、棒読みで、気持ちが伝わってこないために、生徒達も集中を欠きます。せめて、文章には、時々目を落とす程度にまで、練習し、子ども達に、目を向け話して欲しいものです。

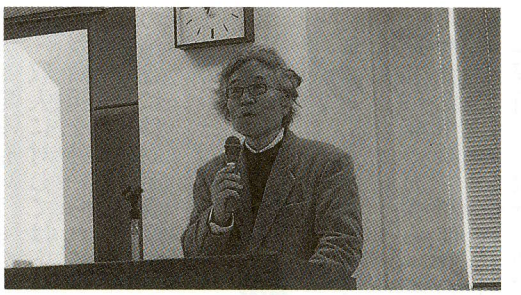
さて、他人のことより、今年の卒園児に送るお祝いの言葉を、考えなくては。

（N・H）

地域貢献の旗手　認定育児相談員のレベルアップを計るフォローアップ研修会

大阪府の育児相談員『認定証』取得者のためのフォローアップ研修が3月2日、大阪府社会福祉会館で行われました。

『子どもの健やかな成長をおびやかす生活状況』をテーマとして、武庫川女子大学教育研究所大学院臨床教育学研究科長の白石大介教授にご講演いただきました。



真剣勝負

感情の原点は？「快・不快」

子どもの健やかな成長に必要なことには、

(1)信頼関係の形成
(2)自我の主体性の形成
(3)自主性・自発性の促進
(4)自己コントロールの獲得
(5)共感性の習得
(6)自信・自己効力感の体得
(7)価値観の形成と実践意欲の育成
(8)感情の育成

などがあり、また特に感情育成の重要性を強調されました。感情が上手く育たなければ、体は成長しても心が成長しない。

一言に感情の育成と言うが、どのように育てればよいか？疑問に思うことであります。

感情の原点は、喜怒哀楽にあるといわれますが、その源は「快・不快」にあるという。

子どもの快・不快という感情を大人が言葉に表して子どもに返してあげることによって、感情が育成されます。特に、乳幼児期に行なうことが重要であります。

そのことを、保育士と保護者が共通確認することによって、より子どもの心を豊かに育てることが出来ます。

良質な睡眠は元気の源!!

また、現代の子どもたちは、社会環境や家庭環境の変化に伴い、慢性的な睡眠不足・食生活の乱れ・運動不足などの様々な影響を受けています。

睡眠・食事・運動は、子どもの成長にはどれも欠かすことの出来ない生活習慣であるが、特に睡眠に関する意識の低さが目立っているという。

子どもの成長には何が一番重要か？のアンケート調査に、今や食事という回答が過半数以上を占めている。良質な睡眠は、疲労回復などの効果もあり、子どもの成長には最も欠かせない要素であります。

1日1回発汗運動することにより、子どもの免疫力は5～6倍にもなります。これらの三大要素が、「キレル・むかつく・肥満・アレルギー等」に深く係わっていることを分かりやすく説明されました。

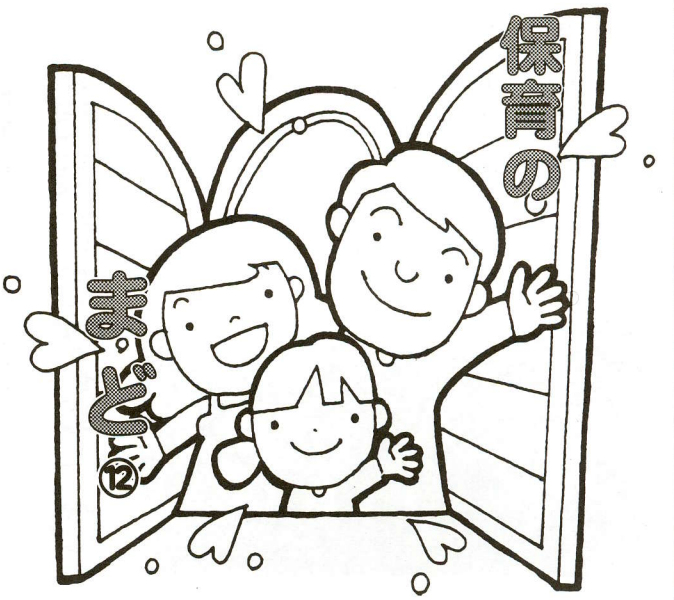
日々の生活習慣や生活体験（失敗や挫折も含む）が、どれだけ子どもの成長にとって大事なものであるかということを改めて考えさせられた研修でありました。

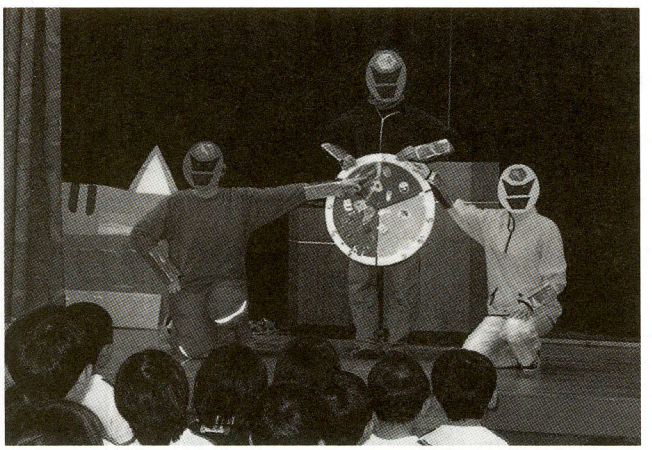
時には優しく　時には厳しく

「保育おおさか」の歴史を綴っていただいたのは多くの皆様の編集に対するご協力の贈物と敬意と感謝を表したい。

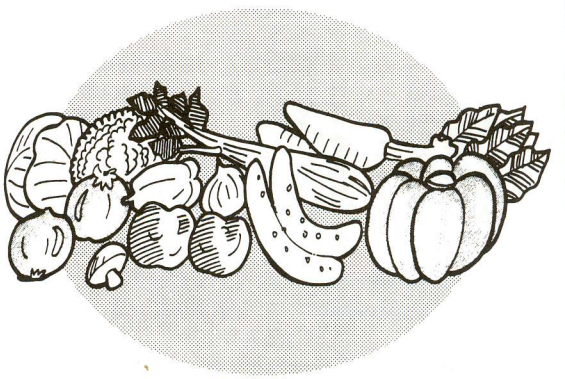
中でも19年という永きにわたり編集委員の要として活躍いただいた尾崎直敏先生が、先月の編集委員会を最後に勇退されました。尾崎さんは5大商業新聞の一社の編集長や編集委員を歴任の後、私たちの「保育おおさか」と保育士会の「ほほえみ」の編集にご指導を頂きました。これからは師ぬきでの編集となりますが、今までご指導いただいたことを生かして頑張る所存であります。尾崎先生には、いつまでもご壮健であられることを心よりお祈りし、永きにわたるご指導に感謝しお礼申し上げたい。

編集委員長





保育の使者　ハッピーレンジャー登場



「堺ブロック・初芝保育園」

子どもの気持ちを考える

―たのしい食育―

当園での食育の取り組みは月に1回食育の会【ハッピーデー】があります。かっこいい（？）ハッピーレンジャーなる赤、黄、緑のレンジャーが出てきてこの食物は身体にとってどんな栄養があるのか説明してくれます。ハッピー野菜（かわいい形に切った野菜）が給食に入っていたり、「何でも食べる元気なまあちゃん」と言うエプロンシアターでからだのしくみを見たり、食物が赤、黄、緑、どの色なのか、またどんな働きがあるのか覚えるようです。

小さな畑には、カラーピーマンやきゅうりを植えて水をやったり、草引きをしたり、花が咲いては喜び、実をつけては食べるときを楽しみにしています。

月に1度の5歳児による手作りおやつは保育園全員のおやつを作る大掛かりなものですが、とても楽しみにしています。

また、年に1度は4、5歳児のお父さんと子どもたちでお母さんや保育園のお友達に昼食を作ってもらっています。給仕をするのもお父さん、エプロン姿のお父さんはとてもかっこよく人気者です。

また、外で食べる食事は食欲増進、格別のようです。

保育園のとなりには理事長の作っている畑があり、四季折々の野菜や果物ができ、それを間近で見ています。

玉ねぎは5月頃に、じゃがいもは6月ごろ収穫でき、初夏にはきゅうりやなす、冬には大根、白菜、ねぎ、キャベツ、ほうれん草などができ、給食はいつも新鮮な野菜がいっぱいです。

また、すももの木もあり真っ赤な実が熟してくると収穫しておやつに出されます。

赤や黄色のスイカでスイカ割り、白桃の木もあり、甘い実をつける桃は子どもたちに大人気です。みかんは11月頃からみかん狩りをして畑で食べたり、収穫をしています。

秋には大きなサツマイモができ芋ほりをします。最初は土を触るのも嫌がっていた子どもたちも大きなさつまいもが出てくると夢中になって掘っています。ハサミムシやだんごむし、かなぶんの幼虫を見つけることもあります。

みんなで掘ったさつまいもは近くの田んぼからもみがらやわらをもらい、落ち葉などを拾ってきて焼き芋にして食べます。

スーパーではどれもほぼ一年中あるものですが、旬のものを旬の時期に美味しく頂けるのは、とても有難いことです。

平成19年度共同募金配分申請の受付が５月１日から５月21日の期間に行われます。

対　　象　社会福祉事業、更生保護事業、その他福祉を目的とする事業を行う法人・団体、それに関連する保健、医療、教育等のボランティア活動を行う団体グループ

問い合わせ　大阪府共同募金会　TEL 06－6762－8718
FAX 06－6762－8710

メール　ai-kibou@akaihane-osaka.or.jp
（件名に「配分申請について」と明記して下さい）

URL http://www.akaihane-osaka.or.jp.

ブロックだより

北摂
保育の質を上げる
好感度アップ研修

3月2日北摂ブロック恒例の一年目の職員を対象の研修会が、茨木市福祉文化会館で行われ、53人の参加を得ました。

講師の槌間勢津先生（槌間教育研究所）から「円滑なコミュニケーションを考える」「好感度アップのマナーを身につける」をテーマに、まず受講者自身のプロ意識の自己チェックを行って一年間を振り返り、改めて社会人として仕事をしていく上で必要な知識について研修していただきました。

保護者や職員間での円滑なコミュニケーションを構築するには、マナーや礼儀だけでなく、自分の感情をコントロールし、表情をコントロールすることで表現力を磨き、常に自分の状態を意識することが重要と教えていただきました。

一年間社会人として働いてきた受講者にとっては、普段から気をつけていた部分もある反面、意識していなかった部分も多く、明日からの保育の現場ですぐに活かせる有意義な研修でありました。

N・K

耳を澄まして

保育園をたずねて 349

豊中市 たまい保育所

昭和55年、豊中市で2番目の民間保育所として創設されました。現在は定員120名です。

園の目標は、自分のことは自分で出来るようにと、基本的生活習慣の習得に力を注がれています。

保育時間の12時間の朝夕も正規職員さんが対応されています。

社会福祉事業としての意識を常に持ちながら知育・体育・徳育・食育に研鑽を積まれています。

特筆するところは、クラスだよりです。通常のクラス便りとあわせて、年3回所長先生と職員さんが、あるテーマに沿って原稿を書き、製本して発行されています。

テーマを深く掘り下げ、見つめながら振り返る。感性が養われたお便りの文章表現は、どれもすばらしく感じました。

ハイポーズ　にんじん

―南大阪―
保護者への声かけ「新任職員の不安」を
―グループでアドバイス―

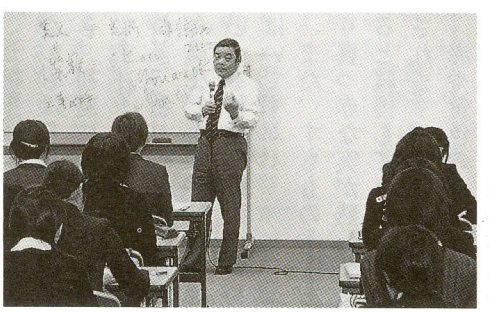
今回、この新任職員研修を受けて改めて自分自身が保育者になるということを実感し、気が引き締まる思いになりました。

ビジネスマナーはもちろん、今回は、現役の先生方も交えてグループ討議をする機会があり、その中でいろいろな意見や考えを出しあえ、とてもいい刺激となりました。

それぞれ自分と同じような不安を抱えていると感じました。

中でも保護者とのコミュニケーションについてが多かったが、先生方が丁寧にアドバイスを下さり、これから十分に活かしていきます。

M・H



あの人この人

子どもたちを心から愛し、保護者や地域の人達から園長・園長と慕われていた「なかよし保育園」中村谷勝美園長が急逝されて早や二か月余り、先日満中陰の法要が関係者集い営まれたとのこと。

正義感強くその卓越したリーダーシップで泉佐野民間保育協議会会長や府保育常任委員を務められ、地域子育て支援に尽力された故人の功績に敬意を表すと共に改めて御冥福をお祈り致します。

後任園長は、同園園長代理を務めておられた故人の一人娘で父親譲りのバイタリティ溢れる山中淳子さんが就任されていますので宜しくお願いします。

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1−54
大阪府社会福祉協議会
保育部会
大阪府保育協議会
TEL (06) 6762−9001
発行人
永野治男
編集人
水崎勝